

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 14 日現在

機関番号：64401

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2015

課題番号：25580188

研究課題名(和文)動的共創型デジタルアーカイブズ構築 - 梅棹忠夫資料に基づいて

研究課題名(英文)Developing Digital Archives with Dynamic Co-creation Mechanism based on Umesao's Documents

研究代表者

久保 正敏 (KUBO, MASATOSHI)

国立民族学博物館・その他部局等・名誉教授

研究者番号：20026355

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：梅棹忠夫アーカイブズの資料間には相関関係がある。フィールドノート、メモ、原稿、著作の間に素材と製品という関係があるためだ。本研究では、利用者が自ら相関関係を発見して書込み、共同してアーカイブズを形成するモデル構築を目的とする。資料の整理、基礎データ作成を行うと同時に、『梅棹忠夫著作集』別巻収録の論文タイトル索引および総索引の全内容をデジタル化し、4万8千件のKW(キーワード)からそれが含まれる論文と出現ページ、1,500件弱の論文タイトルに含まれるKW総覧、が検索可能なデータベースを構築した。これに基づきKWを共有する論文間にリンクを自動作成しそれを基礎に共創型アーカイブズの完成を目指す。

研究成果の概要(英文)：The archival documents of Tadao Umesao consists of field notes, notes for summarizing his ideas, and memorandum for preparing papers, etc. Among those documents, there are many relationships showing source and productions. By tracing the relationships, researchers on Umesao's may analyze the thinking way of him. This research tries to develop a new database framework that enables database users to upload links found by him to the database. For this purpose, providing bibliographic information of the archival documents are done. In parallel with that, the indices contained in the "Collected Works of Tadao Umesao" are adopted to make digital keyword indices of Umesao's works. Based on this digital indices, a database that enables the user to retrieve the documents name and occurrence pages for each keyword has developed. This database will be opened soon in the website of existing "Tadao Umesao Archives" after the Graphical User Interface is prepared.

研究分野：人文学

キーワード：アーカイブズ 相互関係リンク 内容検索

1. 研究開始当初の背景

国立民族学博物館(以下、民博)初代館長・梅棹忠夫が残した膨大な資料は、フィールドワーク途上の諸記録だけでなく、生涯にわたる知的生産活動に関わり、幅広い地域と分野をカバーした世界に誇る文化資源である。2011年度来、民博ではこの「梅棹忠夫資料」の整理保存を開始し、目録情報のデータ入力と解析を進めている。本研究では、入力されたデータに基づき、多分野研究者がそこで見出し記述した資料間の関係性を共有し、動的に共同で知を創出できる共創型デジタルアーカイブズ・システムを構築する。これを多分野研究者が共有することで、民族学史・調査探検史等の解明を共同で進めることが期待できるとともに、他機関でも研究者の残したアーカイブズ資料のデジタル化を進める際のモデルとなることが期待できる。

2. 研究の目的

梅棹忠夫資料は、フィールドノート、スケッチ、写真等フィールドワークで生成された一次資料に始まり、原稿のアイデア、原稿梗概を記した「ござね」カード、原稿、それに対する書評など、個人としての知的生産活動に関わる二次、三次資料の他、学術調査探検隊や学会の組織活動、学術行政、日本万国博覧会への関与、民博創設準備の博物館調査等、対外活動に関わる資料も含む。梅棹はこれら資料を駆使して、モンゴル・アフリカ・東南アジアなど地域研究のほか、情報論、比較文明論、女性論、家庭論、博物館展示論、研究経営論など、幅広い学を打ち立てた。すなわち、これら資料間の相関関係は梅棹の知的生産過程を反映している。

逆にその関係性の解明は、梅棹と同様に新たな知の創造につながる可能性がある。

梅棹の研究手法は、異分野研究者を巻き込んだ共同的な知の創造である。この思想は、デジタルアーカイブズ構築が容易な現在にこそ効果が発揮される(久保正敏「知的生産の技術の今」『HUMAN』Vol.01 22-27 2011)。従来のデジタルアーカイブズは、ISAD(International Standards for Archival Description)やEAD(Encoded Archival Description)等の国際標準仕様で示される如く、資料の物理的収納状態に即した階層構造を前提とするが、この構造だけでは、資料間の関係性を表現することは難しい。そこで、(1)階層構造を網状(ネットワーク状)構造へと拡張し、(2)それに基づいた資料間関係の解明結果を研究者間で即時に共有できる仕組みにより梅棹の理念である共同性・共創性を実現すること、の2点を保証するアーカイブズ構築を着想した。

3. 研究の方法

既に蓄積中の梅棹忠夫資料の目録情報に基づき、民博に専門研究者の存在するアフリカ、モンゴル、情報論について、資料間の関

係性把握やそれに基づく索引情報付与の方法を検討し、それに基づいてシステム基本設計を進め、動的共創型デジタルアーカイブズ・システムを試作する。その開発後に広く関連分野研究者に利用を呼びかけて評価を求め、それをフィードバックさせて本稼働システムを開発する。研究期間内に膨大な梅棹忠夫資料全てに対応することは不可能だが、本稼働システムが完成すれば、研究期間後もその利用をより多分野の研究者に呼びかけ、システムの充実を図ることは可能である。

学術的特色は

(1)従来型と異なる網状構造アーカイブズにより、資料間関係の探索と発見がアーカイブズ構造に動的に反映される、参加型・成長型アーカイブズを利用者が共有できる点、

(2)Wikiのように閉じたソサエティのみが参加するのではなく、責任を明確にしたうえで開放参加型システムにより、研究者の共同型の発見を保証し、共有するアーカイブズである点、
などである。

こうした動的共創型アーカイブズの実現とその活用により、日本の民族学研究史や学術調査探検史、博覧会と博物館の関係史、文化行政史の解明に寄与するほか、文化人類学・民族学にとっても、通時的な歴史再構成や比較研究など、研究上の直接効果は大きい。同時に、梅棹の指向した共同的な知の創造の実践例として、今後、各分野における研究資料アーカイブズ形成のモデルとなり得る。

4. 研究成果

梅棹忠夫アーカイブズの資料間には強い相関関係がある。フィールドノート、要約メモ、原稿、著作それぞれの間に素材と製品という関係があるためだ。この相関関係を探り出し、アーカイブズ内にリンクを形成することで、資料間の相関関係を通じた梅棹の思想形成の分析や、新たな知見の創出の可能性もある。

本研究では、利用者が自ら関係性リンクを発見して書込み、共同してアーカイブズを形成するモデル構築を目的とする。そのために、まず資料の整理、およびデジタル化を含む基礎データ作成を進めた。既存の資料には、その内容を示すキーワード(KW)を付加する必要があるが、その作業には膨大な時間を要することが明らかとなった。そこで、既刊の『梅棹忠夫著作集』別巻(中央公論社XXXX~XXXX年刊行)収録の論文タイトル索引および総索引を活用した。後者は、著作集作成に関わった研究者たちが、各論文各ページに付与したKWの索引集であり、論文間の関係性把握に有効と考えたからである。

電子組版導入以前に刊行された本著作集にはデジタルデータがなく、本研究で別巻の全内容、計440ページを手作業にてデジタル文字化し、(a)48,000件余のKWからそれが含まれる論文タイトルと出現ページ、(b)1,500

件弱の論文タイトルからそこに含まれる KW 総覧、が検索可能なデータベースを構築した。GUI の整備を待ってウェブ公開の予定である。

このデータベースは、今後の資料整理に役立つ。それだけではなく、これを基に、次のステップとして、ある KW を共有する論文間に相関関係が存在すると仮定して論文間にリンクを自動作成することが可能となる。この結果に対する研究者による妥当性検討の段階をおこなってもらい、その作業と並行して、研究者自身によるリンク形成機能を持つ共創型アーカイブズの完成を目指す。その基本機能の実現は比較的容易であるが、最も注意すべき点は、研究者自身の書き込みを制御する体制の整備である。書き込みを即時に反映させるのは、リスクを伴うので、一旦、書き込み情報を蓄積しておき、一定のガイドラインに従って、委員会などの体制がその内容を精査した後に、実データベースに反映させる仕組みが求められる。この体制についても、検討を深める。

国立民族学博物館では、2014 年度より「フォーラム型情報ミュージアム」構築のプロジェクトが開始され、利用者からの書き込みを許す仕組み導入の検討が始まっているが、本アーカイブズの理念とも関連が深いため、今後は連携を深めて、仕組みの実現を目指す。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

久保正敏、「友の会講演会要旨 第438回 グローバル時代の「知的生産の技術」- フォーラム型博物館の可能性」『国立民族学博物館友の会ニュース』225, pp.4-4, Mar.1.2015、財団法人千里文化財団、査読なし。

久保正敏・五島敏芳・関野樹、「鼎談 アーカイブズの現状と可能性(特集 研究資料のアーカイブと活用 6)」『SEEDer』No.11, pp.43-53, Dec.15.2014、株式会社昭和堂、査読なし。

[学会発表](計4件)

久保正敏、「デザインのアーカイブズ化がもたらす可能性について」京都工芸繊維大学美術工芸資料館主催『平成27年度文化庁「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」グラフィック分野第1回報告会(招待講演)デザイン資源のいまとデザインアーカイブのこれから』Mar.20.2016、京都ライオンホテル(京都府・京都市)。

久保正敏、「工業デザイン・製品の記録とアーカイブズ化がもたらす可能性について」『大阪新美術館建設準備室 デザインをめぐる 公開ディスカッション 2015 デザインのきのうとあした 第2部 インダストリアルデザイン・アーカイブズ研究プロジェクトの展望』Dec.12.2015、メビック扇町(大阪府・大阪市)。

久保正敏、「国立民族学博物館の情報化史」『機関研究「民族学資料の収集・保存・情報化に関する実践的研究:ロシア民族学博物館との国際共同研究」第2回国際ワークショップ コンピュータとドキュメンテーション 民族学資料のデジタル化とその利用』Mar.4.2014、国立民族学博物館(大阪府・吹田市)。

Masatoshi Kubo, "Problems in Managing Cultural Resources; Resource Sharing, Protecting Intellectual Properties and Ethical Consideration" in International Research Meeting On Museology, Myanmar, Sep.26.2013, National Museum (Yangon, ミャンマー)。

[図書](計6件)

久保正敏、「人間文化資源」の総合的研究実績報告書」『人間文化研究機構の第2期連携研究に関する実績評価報告書』pp.39-42, Mar.2016、人間文化研究機構。

久保正敏、「総括班報告」久保正敏編集『人間文化研究機構 連携研究「人間文化資源」の総合的研究 成果報告書』pp.4-18, Jul.21.2015、人間文化研究機構。

久保正敏(編集)『人間文化研究機構 連携研究「人間文化資源」の総合的研究 成果報告書』Jul.21.2015、人間文化研究機構(総876p.)。

久保正敏、「文化資源の公開・共有と権利・倫理」園田直子・小長谷有紀・I.Lkhagvasuren(共編)『アジアにおける新しい博物館・博物館学の「いま」- モンゴル、ミュージアム・クリルタイ』pp.51-58, Nov.21.2014、モンゴル国立文化遺産センター。

久保正敏、「映像アーカイブズから映像の共有を考える - 国立民族学博物館での経験から」村尾静二・箭内匡・久保正敏(編)『映像人類学 人類学の新たな実践へ』pp.195-217, せりか書房, May.23.2014。

村尾静二・箭内匡・久保正敏(編)『映像人類学 人類学の新たな実践へ』せりか書房, May.23.2014(総309p.)。

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：

種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

久保 正敏 (KUBO, Masatoshi)
国立民族学博物館・その他部局・名誉教授
研究者番号：20026355

(2) 研究分担者

()
研究者番号：

(3) 連携研究者

及川 昭文 (OIKAWA, Akifumi)
総合研究大学院大学・その他部局・名誉教授
研究者番号：30091888

吉田 憲司 (YOSHIDA, Kenji)
国立民族学博物館・文化資源研究センター・
教授
研究者番号：10192808

小長谷 有紀 (KONAGAYA, Yuki)
人間文化研究機構・その他部局・理事
研究者番号：30188750

五島 敏芳 (GOTO, Haruyoshi)
京都大学・総合博物館・講師
研究者番号：90332139